

北海道各地から産出する黒曜石
その15くしろちいき
釧路地域

(Kushiro Area)

釧路地域では、釧路地区(鶴丘、舌辛原野)とクチヨロ原野地区で黒曜石を発見しました。このうち鶴丘の第3段丘堆積層中に含まれる数cm程度の礫は、典型的な黒曜石レンズでありハンマーで叩くと小さな剥片状、若しくは板状・塊状に割れ、明瞭な貝殻状断口は持ちません。また黒曜石レンズは偏光顕微鏡で観察すると全体が赤褐色の色合いを呈するのが特徴です。

舌辛原野Aでは長径2.0cm前後の円礫を採取可能であり、貝殻状断口を有しガラス光沢があります。鏡下では、結晶が目立たず、晶子が目立ちます。

久著呂川Aは河床堆積物の中に混ざって長径2.0cm前後の礫として採取されます。角張った礫が比較的目立ち、貝殻状断口を有し、ガラス光沢があります。黒曜石の量はさほど多くありませんが確実に採取することができます。鏡下では、0.60～0.80mm程度の比較大きな石英や斜長石の結晶をわずかに含む他、0.05mm前後の斜長石の結晶が多数目立ち、更にその周囲を微小の結晶が埋めている場合が多く見られます。

釧路産の黒曜石は釧路Ⅰ組成グループと釧路Ⅱ組成グループになります。前者は、更新世前期の釧路層群中の軽石を主体とする火砕流に参与していると推定され、後者は、クチヨロ原野地区の上流域に“弟子屈火山”の基底火山碎屑物中に黒曜石の破片を含む(佐藤・垣見、1967)ことから、噴出源はこの火山に関係していると推定できます。

いずれも今回の新原産地の発見は今後の釧路周辺地域における先史時代の人々の行動を考える上で興味深い事実となります。(学芸員 向井 正幸)



舌辛原野Aでは、分厚い火砕流堆積物が分布している。その中に黒曜石の礫が含まれる。



火砕流中の黒曜石の礫は角が取れ若干丸みを帯びている。ガラス質で良質の黒曜石である。大きなものは石器の石材になる。

地学シートHP



地学Sheets

Asahikawa City Museum

旭川市博物館HP

